



安全・安心に向けた取り組みについて

- 消費者起点の農産物づくり -

オイシックス株式会社 阪下 利久

Oisixにおける、商品作りの一貫した「コンセプト」

作った人が
自分の子供に
食べさせることが
できる農産物



未来への持続可能性を重視。

第三者(中立機関)による、商品採用の決定

- ・「食質監査委員会」が「採用」「不採用」を決定
- ・メンバーは、外部専門家と主婦で構成。



13期の
各委員

「食の不安」への打ち手 ⇒ 3つの問題解決

「対立概念」として捉えず、「統合化」「見える化」

1. たべもの与人
2. 消費者と生産者
3. 有機農業と科学技術



GAPをどう捉えているか？

「農業生産工程管理（GAP: Good Agricultural Practice）とは、農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に則して定められる点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動のことです。」

（農林水産省web－siteより 平成25年5月17日 更新）

持続可能な農業の「しくみ」としての、J-GAP

1. 「持続可能な農業」の「手法」として期待。
⇒ 「品質向上」「拡大再生産」
2. 現在は生物的危害が広まりやすい「施設園芸分野」での普及に力点。

(1.の成功事例)

oisix「ベストバイ小松菜」は「JGAP認証農場」産。



「農家オブザイヤー」は「ベストバイ」ではない。

★高品質化の結果、「顧客を創造する」生産者づくり

消費者の「おいしい」の声(＝心が動かされた)の数で表彰

